

解答は別紙の解答欄に記入しなさい。

I ギリシア・東方正教世界の歴史は、カトリシズムやプロテスタンティズムを基礎とする西ヨーロッパ世界やイスラーム世界の歴史と比べて最近まで注目されることが少なかった。それは、ギリシア・東方正教世界がオスマン帝国や共産主義の下で弱体化していたためだと思われるが、状況は大きく変わりつつある。1989年以降社会主義政権がいっせいに崩壊し、正教文化が復興してきたからである。また、中東のイスラーム世界で過激派が支持を集め、西ヨーロッパ文明に対するテロ活動が頻発するなかで、アラブ人の中にも広がる正教文化は第三の軸として独自の立場を担っていると言える。以下のギリシア・東方正教世界に関する（A）～（C）の文章を読み、（1）～（10）の設問に答えなさい。

（A）ギリシアは早くから古代オリエント世界と接触をもち、紀元前2000年紀前半にはすでにミケーネ文明を形成していた。前1200年頃ミケーネ文明が滅亡すると、しばらく暗黒時代を迎えるが、前8世紀頃には各地にポリスが作られ、古典文化を生み出すこととなった。当時ギリシア人はオリンポスの12神を中心とする多神教を信じていた。しかし、この文化は人間中心主義で合理性を重んじるところに特徴があり、そのような哲学、歴史、文学、彫刻、建築などが発達した。前330年ギリシア北方にあったマケドニアの王アレクサンドロスがアケメネス朝ペルシアを滅ぼすと、このギリシア文化はオリエント世界にも浸透していき、ヘレニズム文化が形成されるようになった。

（1）ミケーネ文明崩壊後移動したギリシア人の中でトロイア周辺に定住した人々を何と呼ぶか。

（2）ポリスで商工業が発達すると、豊かになった平民たちは自費で武具を調達し、ポリス防衛に加わるようになった。そのような兵士を何と呼ぶか。

（3）ペルシア戦争などで用いられたギリシアの軍船で、その高速性で知られたものは何か。

（4）アレクサンドロスが東方遠征からの帰還中に急死したユーフラテス川流域の都市はどこか。

（B）地中海世界の支配権がローマ帝国に移ると、東地中海の属州ユダヤではキリスト教が誕生した。この新しい教えは、当時の国際共通語であったコイネー・ギリシア語によって帝国中に広がることとなった。はじめキリスト教はローマ帝国によって激しく迫害されたが、313年にはコンスタンティヌス帝によって公認された。395年ローマ帝国は東西に分裂し、西ローマ帝国は百年も経たないうちに滅亡し、ゲルマン人の諸国家に分断された。他方、東ローマ（ビザンツ）帝国は千年以

上キリスト教国として存在し続けた。5つの総大司教座のうち、ローマ以外はすべて当初東ローマ帝国内に位置し、コンスタンティノープル（ビザンティウム）はその中心だった。

(5) キリスト教では、ナザレのイエスを旧約聖書のメシア（ヘブライ語で「救世主」の意味）であると信じるが、メシアを新約聖書のギリシア語では何というか。

(6) シリアにあるキリスト教の初期からの中心地で、イエスを信じる者たちが世界ではじめて「クリスチャン」と呼ばれたと聖書に記されている町はどこか。

(7) 庶民出身ながら、ビザンツ皇帝ユスティニアヌスの妻となり、優柔不断な皇帝を助け、「女帝」と呼ばれるほど人々の信頼を得た女性の名前は何か。

(C) 7世紀になると、アラビア半島でイスラーム教が成立し、その後一世紀ほどのあいだ征服戦争を繰り返し、かつてビザンツ帝国領だったシリア、エジプト、チュニジアなどを支配下に置くようになった。その後、小アジアではトルコ系のオスマン朝が力をつけ、バルカン半島に進出し、1453年メフメト2世の時代にコンスタンティノープルを征服し、ビザンツ帝国を滅亡に追いやった。コンスタンティノープルはイスタンブルと改名され、オスマン帝国の首都となった。東方正教はギリシアやロシアに残ったが、それ以外の地域のキリスト教徒はイスラーム国家のもとで少数派として生きることとなった。しかし、オスマン帝国が弱体化し第一次世界大戦後崩壊すると、バルカンの諸国家は独立を果たした。中東のキリスト教徒たちも、少数派ながら固有の存在であり続けている。ロシアの正教会は共産主義の時代には抑圧されたが、現在は勢力を回復しつつある。

(8) スラヴ民族の間にキリスト教を伝えるために作られた文字で、現在のロシア語などのもとになったものを何というか。

(9) 預言者ムハンマドの死後、その跡を継ぎ、征服活動を指揮した正統カリフの初代は誰か。

(10) イスタンブルにあるハギア＝ソフィア聖堂はしばしばビザンツ建築の代表とされるが、オスマン帝国時代になってこれをモスクに改造するため、周囲に取りつけられた新たな建築要素は何か。

Ⅱ 下記の文章を読み、空欄（ A ）～（ F ）にもっとも適切な語句を入れなさい。また下線部①～④にかんする各設問に答えなさい。

フランスの歴史家フェルナン・ブローデルは著書『物質文明・経済・資本主義 15-18世紀』（村上光彦訳）のなかで次のように書いている。「栽培植物は旅を続けてやまず、そして人類の生活を絶えず根底から覆してきた。しかし栽培植物の移動は、いわばおのずとなし遂げられながら、数百年、ときには数千年にわたってなされたものである。しかしながら、アメリカ大陸発見ののち、これらの移動は増加し、速度が早まった。＜旧世界＞の植物が＜新世界＞に、また逆に＜新世界＞の植物が＜旧世界＞に行きついた。一方からは、稲・小麦・砂糖きび・コーヒー豆が……。逆方向からはとうもろこし・じゃがいも・いんげん・トマト・マニホット・たばこが……」。

このブローデルの指摘をもう少し具体的に考えてみよう。

旧世界から新世界へ移動した例として、砂糖をとりあげる。少なくとも19世紀なかばまでは砂糖の主たる原料はサトウキビであった。インドおよびペルシアでは早くから製糖技術が発達していたと考えられているが、地中海地域、さらにヨーロッパに砂糖と製糖技術を広めたのはイスラーム教徒であった。彼らは8世紀初めイベリア半島の（ A ）王国を滅ぼしたのち、ピレネー山脈を越えて ガ  
リアの地に侵入し、移動する先々で砂糖を広めたのである。①

サトウキビは、1493年コロンブスの第二回航海のときに、スペイン領であったカナリア諸島から新世界にもたらされたといわれる。新世界でサトウキビの栽培を始めたのはスペインであるが、1520年代にポルトガルが（ B ）でサトウキビの栽培を開始して以来、その砂糖産業は発展をつづけ、百年後にはほぼ全ヨーロッパに砂糖を供給するようになった。同じ17世紀前半には、イギリス、オランダ、フランスがカリブ海域にプランテーション経営を展開した。②イギリスはバルバドスやジャマイカで砂糖産業の開発に成功し、価格面でポルトガルとの競争が可能となり、北部ヨーロッパ市場からポルトガルを追放することに成功し始める。しかし、やがてフランスとの競争にさらされ、18世紀半ば以後イギリスはヨーロッパ市場を奪回することはできなかった。そのかわり、イギリスは国内市場の増加する需要にこたえてゆくことになる。18世紀までのイギリスにおいて、砂糖はまだ大衆的な物品ではなかった。しかし18世紀のなかばになると、（ C ）に砂糖を入れて飲むことがもっとも貧しい階層にとっても欠かせない習慣になった。

ここで、砂糖の生産の過程についても考えてみよう。サトウキビから糖分を含む液体をとりだし、それを糖分が凝縮されるまで熱して、さらに結晶化させるという工程は、多くの労働力を必要とした。この段階の砂糖は、わたしたちが現在知っている白いさらさらした砂糖ではなく、茶色の「粗糖」である。この「粗糖」がヨーロッパへ運ばれ、そこで精製されて白い砂糖となり、再輸出された。たとえば、フランスのナントは、砂糖の精製と再輸出で繁栄した都市だが、その大貿易商人たちはアフリカから新世界へ（ D ）を送ることによっても莫大な利益を得ていたのである。

逆に新世界から旧世界へ移動し、人びとの生活に大きな影響をあたえた食物の代表として、ジャガイモをとりあげる。アンデス地域の人びとは古くからジャガイモの栽培を始めていたといわれるが、それをスペイン人が本国に持ち帰ったのは16世紀のことである。その後ジャガイモはヨーロッパの各地に広まるが、それは観賞用としてであって、食用としてではなかった。18世紀になっても人びとはこの地中にできるみにくい塊茎を食べることに強い抵抗をしめしたが、君主のなかには救荒作物としての価値に注目してその栽培を奨励する者があらわれた。たとえば（ E ）はバルト海沿岸のポンメルン地方でジャガイモを栽培させたし、ルイ16世はサブロンとよばれる砂地でその栽培実験をさせた。この点についてブローデルは上述の著書のなかで「ヨーロッパでも、ほかの土地でも、貧乏な利用者がまっさきに門戸を開いた。人口の伸長につれて、否応なしに門戸を開かざるをえなかったのである。それに、世界の人口が増加するのは、また増加しうるのは、ひとつにはこれら新しい栽培植物によって食糧生産の増大が可能になったためではなかろうか」と述べている。たしかに、（ F ）の人口が、17世紀以降、とくに18世紀半ばから19世紀の40年代まで、際立って高い上昇率を示したのも、他国に先駆けてジャガイモの栽培が普及したからである。そしてこの地域では、<sup>③</sup>1845年からジャガイモの病害による大規模な飢饉が起り、百万人以上の餓死者をうみだしたのである。（ F ）人は、同じ1845年に出版された書物<sup>④</sup>『イギリスにおける労働者階級の状態』のなかで「ぼろを着て歩き、ジャガイモを食べ、豚小屋で寝る」と評され、イギリスの最下層の労働者とみなされた。

ジャガイモと同様に新大陸から旧大陸へと広まった栽培植物としてとうもろこしをあげることができる。とうもろこしはコロンブスがキューバで「発見」したといわれるが、ヨーロッパの文献に初めて現われたのは16世紀になってからであり、市場で取引される穀物として登場するのは、さらに百年ほど経ってのことである。18世紀になると、たとえばフランスのペリゴール地方において、とうもろこしは粟とならんで貧しい階層の主要な食糧になっていた。昨今とうもろこしがサトウキビと並んで新聞などで話題になるのは、ガソリンの代替燃料となるバイオエタノールの原料としてである。植物由来の燃料は「環境にやさしい」といわれるが、代替エネルギーとして本当に適切であるか、あらたな環境の破壊を生み出さないか、さらに食糧価格の高騰というかたちで人びとの生活を圧迫しないか、などのさまざまな問題をはらんでいる。

## 設問

- ① 紀元前1世紀にこの地に遠征したローマの将軍は誰か。
- ② エスパニョーラ島西部で発生した反乱は独立戦争に発展し、1804年にこの地域はフランスからの独立を達成し、世界最初の黒人共和国となった。この共和国の名称は何か。

- ③ 1840年代後半は世界各地でさまざまな政治的・社会的事件が起こった時期である。次の事項のうち、1846～50年に起こらなかったできごとの記号をふたつ選んで、記号順に答えよ。

イ バープ教徒の乱	ロ 航海法の廃止	ハ 第一インターナショナルの結成
ニ カリフォルニア金鉱発見	ホ クリミア戦争	ヘ フランクフルト国民議会
ト 「諸国民の春」	チ 国立作業場の設置	

- ④ この書物の著者はドイツ出身の社会主義者である。その名前を記せ。

Ⅲ 下記の文章を読んで空欄（ A ）～（ J ）に適切な語句を記入し、下線部①～⑤に関連する設問に答えなさい。

21世紀は人権の時代だといわれる。冷戦の終結とともに東西の対立は重要性を失い、それに代わって経済・情報のグローバル化や地球環境の問題とともに、人権が世界の主要な関心事となっている。人権問題に対する関心の高まりは、国境を越えた広がりを見せる反面、内政干渉を嫌う主権国家の抵抗や、著しい南北格差に反感を抱く途上国の反発を生んでいる。このような抵抗や反発を克服せずに、人権は世界の普遍的価値にはなりえないだろう。

もともと人権の思想はヨーロッパに生まれたといわれている。文書によって「国民」の権利を保障する制度の確立を人権保障のはじまりとすれば、それは（ A ）治世のマグナ＝カルタに遡ることができる。（ A ）は、フランス国王フィリップ2世との戦いで大陸領地の大半を失い、教皇（ B ）と争って破門された。さらに財政難から、これまで諸憲章や慣習法によって封臣に認められてきた「古来の権利と自由」を無視し、重税を課したため、これに不満をもつ貴族らが結束して国王に反抗しマグナ＝カルタを認めさせた。それによって貴族らは「古来の権利と自由」を回復するとともに、新たな課税には高位聖職者や大貴族の会議による承認を必要とすることなどを認めさせ、将来にわたる法の支配を保障させた。① もちろんマグナ＝カルタによる権利の保障が、国王によってつねに遵守されたわけではない。しかし、重大な権利の侵害がおこなわれる度に、マグナ＝カルタの原則が再確認され、さらに新たな権利や自由が加えられていった。ただし、マグナ＝カルタは「古来の権利と自由」の制度的保障を国王と封臣との間で文書により確認したものではあっても、「人間が生まれながらにして持つ権利」や「立法権に対抗できる権利」のような近代的人権の性格をもつものではなかった。近代的人権が誕生するためには、ロックやルソーなどによって展開された（ C ）思想の助けが必要であった。

ジョン・ロックは、イギリスの政治思想家（ D ）の社会契約説を批判的に継承し、政治社会の成立を自然状態から説きおこした。ロックによれば、自然状態において人間はすべて独立・平等で、生命・自由・財産にかんする一定の権利を賦与され、労働や貨幣を通してさらなる財産の形成をするという。そこでは人々の間の紛争を解決する機関も権力も欠けているから、人々は人権を内外の侵略者から守るために、各人が自然状態で保有していた権利の一部を政治社会に譲渡して共通の政治権力を形成することになる。しかしながらこの政治権力はもっぱら生命・自由・財産にかんする権利を擁護するためのものであるから、政府が信託目的に反してこれを侵害する場合には（ E ）が認められ、新たな政府を創ることができるという。このようにロックは、生命・自由・財産という立法権によっても侵されない権利を論じ、政治権力を契約によって成立するものとして位置づけた。<sup>②</sup>

これに対してルソーは、政治社会と権力の成立を同じく社会契約によって説明するものの、その契約は各人が天賦の人権の一部を譲渡するのではなく、生命・自由・財産にかんする権利をふくむすべての人権を来るべき政治社会に委譲すべきものとする。そうしてはじめて、人々の意思は単一の国家意思となることができるといえる。もし人々が人権の一部を、とりわけ財産権を個人に残しておくとしたら、自然状態末期の不平等を来るべき政治社会に持ち込むことになり、平等な社会を築くことはできない。社会契約によって成立する国家の意思は人々の全体の意思であり、その権力は人々の権力である。それは分割されえず、また代表されえない。それは全市民の参加により、全市民の利益のために行使されなければならない、とルソーはいうのである。

このような思想を背景として近代的な人権保障の制度がアメリカとフランスで生まれた。七年戦争後イギリスは財政危機に対処するため植民地支配を強化した。印紙法による大規模な課税政策が打ち出されると、植民地人は「代表なくして課税なし」の主張のもとに強く反発し、さらに東インド会社にアメリカにおける茶貿易独占権が与えられると、東インド会社の船荷を投棄する（ F ）をひき起こした。これに対してイギリス本国が懲罰的行動に出たため、1774年、植民地側はフィラデルフィアで大陸会議を開き、抵抗する姿勢を強めた。翌75年にレキシントンとコンコードで武力衝突が起けると、ワシントンを総司令官に任命し戦闘態勢を整えた。そして植民地13州の代表はロック的な（ C ）思想に基づいて、1776年7月4日大陸会議において（ G ）の起草した「独立宣言」を採択した。この宣言は、人間が神から一定の不可譲の権利を与えられ、その擁護のために被治者の同意を得て政府がつくられたことを明らかにし、立法権によっても侵されない人権とともに、人権を侵す政府に対してはそれを転覆する権利を人民に認める点で、画期的であった。ただし、各州の憲法や、のちのアメリカ合衆国憲法の基本となるこの「独立宣言」の人権保障は、あくまでヨーロッパ系移住者の権利であって、先住民や黒人奴隷はそこから除外されていた。<sup>④</sup>

他方、同時期のヨーロッパではフランス絶対王政が、ルイ14世期以来の膨大な戦費負担などによって財政的危機を迎えていた。ルイ16世は財政の立て直しをはかるため銀行家の（ H ）を登用し、免税特権をもつ聖職者や貴族にも課税しようとした。これに反対する貴族は、王権を制限するため

( I ) 年以来開かれていなかった全国三部会の開催を要求した。全国三部会は1789年5月に招集されたが、議決方法をめぐって特権身分とブルジョアジーを中心とする第三身分とが対立し、第三身分の議員たちは自分たちこそが国民を代表すると宣言し、国民議會を結成して憲法制定までは解散しないことを誓った。これに貴族の一部などが合流したため国王も認めざるをえず、国民議會は憲法制定議會と改称した。しかし、国王は保守的な貴族と結んで、武力で議會を弾圧しようとした。これに対して手工業者や商工業者は激しく抵抗し、物価上昇に苦しんでいたパリの民衆も圧政の象徴であったパリのバスティーユ監獄を襲撃した。この動きはパリ以外の都市にも波及し、農村では農民が領主の館を襲った。これをおさえるため議會では領主裁判権や教会への( J )などの封建的特権の廃止が決議され、ラ＝ファイエットらの起草した「人権宣言」が採択された。そこではルソーなどの思想を基本理念として、財産権や自由権を中心とする権利が、圧政にも対抗できる不可侵の権利として認められ、それを保障するのが政府の目的であると明示された。こうして革命とともに登場した人権保障の体制は、国民を主権者とすることで特権と身分制を否定し、国民を法の下に平等とし、国民と政府の新しい関係を生み出したのである。

しかしながら、アメリカとフランスを先駆として登場した人権保障の制度は、自由権中心の制度であり、平等も形式的平等の保障にとどまり、社会的・経済的不平等を積極的に是正しようというものではなかった。参政権についても、制限選挙制度をとり、女性には選挙権が認められなかった。その後のさまざまな政治的・社会的運動はこうした制約を乗り越え、人権保障を拡大し補強する方向をたどることになる。そして今日、人権は、その欧米中心主義的な性格が疑問視されながらも、あらゆる国内政治や国際政治の中でいっそう重要な位置を占めつつある。

#### 設問

- ① 次代国王ヘンリ3世がマグナ＝カルタを無視すると、聖職者・貴族などによる會議を召集してこれを国王に認めさせ、イギリス議會の起源をなしたといわれる人物は誰か。
- ② このような「国家契約説」と対立する考え方で、フィルマーやボッシュエなどによって唱えられた政治思想を何というか。
- ③ 主権がすべての市民に帰属し、すべての市民に対して責任を有するこのような考え方を何というか。
- ④ その後、「奴隷解放宣言」や長きにわたる黒人差別撤廃運動を経て1960年代にようやく制定された「南北戦争以来の画期的な黒人救済措置」と評された法律を何というか。
- ⑤ この誓いを何というか。

IV 以下の1・2の設問に答えなさい。

- 1 (1) 康有為 (2) 孫文 (3) 蔣介石 (4) 毛沢東 (5) 鄧小平の5人はいずれも中国近現代のそれぞれの節目にあって、固有かつ指導的な役割を担ってきた代表的政治家・思想家である。

各人物について、以下のA(その著作の一部)、B(その発言)、C(晩年に示した政策または主張)から最も関係の深いと思われるものを一つずつ選んで、その記号を記しなさい。

三つすべて正しい場合のみを正解とする。なお、史料の文章には表現を設問用に一部改めた箇所がある。

A

イ 「中国革命の歴史的特徴は民主主義と社会主義の二つの歩みに分かれることにあるが、その第一歩は現在すでに普通の民主主義ではなく、中国型の特殊で新しい型の民主主義、すなわち新民主主義である。その歴史的特徴はどのようにして形成されたのか。……中国と世界の歴史の発展を調べてみれば、この歴史的特徴がアヘン戦争の時からあったものではなく、第一次世界大戦とロシア革命の後に初めて形成されたことが直ちにわかる」。

ロ 「ローマが滅んで民族主義が興り、欧米の各国が独立した。しかし、みずからその国の帝王となり、威圧的な専制を行うに及んで、下の者はその苦しみに耐えなかったため、民権主義が興った。18世紀の末、19世紀初めに専制は倒れて立憲体制が生まれた。世界が開化し、人智がますます発達し、物質が開発されるに至ったこの百年は以前の千年よりも急であり、その結果、経済問題が政治問題の後をうけて現れ、民生主義が激しく動き出すようになった。」

ハ 「国民革命軍総司令に任命するとの国民政府の命令を拝受した。…私は就任に当たり、謹んで次の三つのことを国民に告げる。第一、帝国主義とその手先である軍閥に対しては、必ず不斷の決戦を行い、妥協の余地を残さない。第二、全国の軍人とともに一致して外に当たり、共同して革命を行うことを求め、それによって三民主義の早期実現を期する。第三、必ず我が全軍を国民と深く結びつけて人民の軍隊たらしめ、進んで全国人民がともに革命の責務を担うように求める」。

ニ 「『文化大革命』はそれ以前の17年の誤りと比較すると、ゆゆしき全面的な誤りである。その後遺症はいまなお残っている。……それは無政府主義や極端な個人主義を氾濫させて、社会の気風を壊滅させた。……しかし、我々の党は反革命集団を粉碎して『文化大革命』を終了させ、以来ずっと今日まで発展してきた」。



ホ 「日本は険しい山の多い小島だが、近來君臣が制度を改革して政治を振興し、十余年で廢れていたものをすべて復興させ、<sup>⑨</sup>南は琉球を滅ぼし、<sup>⑩</sup>北は蝦夷を開發した。欧州の大国はこの状況を横目でにらみつつもあえて隙を狙おうとはしない。日本でさえそうだ。ましてや中国は面積廣大にして物産も豊富、人も多く、堯、舜、夏殷周三代の王が後世に伝えたみごとな礼治をもち、歴代聖王が造り上げた人心も堅固である。それゆゑ中国が強くなれないはずはない」。

B

- イ 「革命はいまだなお成功していない。すべての同志は努力を続け、目的を貫徹しなければならない」。
- ロ 「政治・經濟・文化・軍事が全面結合した人民公社はなんとすばらしいものか」。
- ハ 「四つの現代化建設は中国の實際から出發して実行しなければならない」。
- ニ 「孔子はいにしえに託して制度の改革をはかった人物である」。
- ホ 「国内の共産黨などの問題をまず解決し、しかるのちに日本などの外敵に対処すべきである」。

C

- イ 大陸反抗
- ロ 造反有理
- ハ 保皇・立憲
- ニ 連ソ・容共
- ホ 社會主義市場經濟

2 Aの文章イ～ホの下線部①～⑩に関連する以下の設問に答えなさい。なお①②③を除いてすべて漢字で正確に記しなさい。

- ① 第一次世界大戰後の新思潮の中で民衆が北京政府に調印を拒否させた条約は何か。
- ② ロシア革命後、帝政ロシアの中国に対する帝國主義的特權の放棄を宣言した人物は誰か。
- ③ フランス革命中に制定されたフランスの憲法のうちで、立憲君主制を規定した憲法は何年に採択されたか。
- ④ 19世紀ヨーロッパにおいて、主觀的に理想社會を構想することで、こうした問題の解決を目指したとされる社會主義思想を何というか。

- ⑤ 当時の国民政府があった都市はどこか。
- ⑥ 中国東北部に拠点をもち北京政府を支配した最後の軍閥で、国民革命軍の討伐目標となった人物は誰か。
- ⑦ 「文化大革命」中、全国各地で「社会の気風を壊滅させる」実行部隊となった若者の集団組織を何というか。
- ⑧ 「文化大革命」の前半を主導し、最高指導者から後継者に推されるも、後に彼と対立し、その暗殺を企てた「反革命集団」のリーダーとされる人物は誰か。
- ⑨ それまで琉球全体を支配した国王の正式称号は何か。
- ⑩ 1875年に北方国境を画定した日本とロシアとの条約は何か。

平成20(2008)年度 文学部 問題訂正

科目	誤	→	正
世界史	P10 Cイ ・大陸反抗	→	・大陸反攻